

- ◇少人数学級であり、学級の中で必要な係活動などをそれなりに楽しく行ってはいるが、広がりという点ではまだまだ視野が狭い。6年間を通じて多様な経験を積ませるには、どのような手立てが有効だろうか？
- ◇担任の学級経営に対する思いと児童の実態とで、取り組み方は様々にかわると思うが、適時性を考えると1学期から3学期までを通じて学級経営の系統的な活動パターンというものはあるのだろうか？
- ◇子ども達は、一人ひとりの生活環境がかなり違っており、また、情報をいろいろなところから得ている。そうした中、子ども達の、目的意識や考え方がかなり違っており、学級としてのまとまりを欠くことが時としてある。こうした、子ども達を、一つの学級として、同じ目的意識をもった中で育てていくにはどうしたらよいか？
- ◇支持的風土を作り出すためにどのような取組がいいのだろうか？
- ◇学級目標の設定の仕方、あるいは、評価の仕方について有効な方法を学級の話合い活動（学級会）との関連をふまえてどのようなものがあるか？
- ◇学級目標に基づいて、子どもたちが本当にやってみたいと感じる活動は、年間を通してどのように取り入れていけばよいか？
- ◇子どもが自主的に活動するために、教室環境はどのように整えるとよいか？
- ◇子どもたちが意欲をもって活動する学習集会はどのように仕組みばよいか？
- ◆学級で集会づくりを子どもたちにまかせると、短絡的な楽しさばかり求めようとする。何を、どの程度、任せたり、指導したりすればよいのだろうか？
- ◇特別活動の時間を多く使って準備しているわりには学習効果がうすいようだ。集会活動が単なるお楽しみ会的なものにせず、子どもたちを育てるといふものになるにはどうしたらよいただろうか？
- ◆本校は完全複式3学級の小規模校です。入学してくる子は保育園から3年以上も一緒に子どもたちのなかに人間関係ができてしまっている。互いの良さを認めあえるような人間関係づくりにはどうしたらよいただろうか？（低学力の子も認めてもらえる学級づくり）
- ◇少人数での活動となると、余計にできることが限られてしまう。どの学級も10人以下なので、活動を工夫して行うことが大切になってくるが、担任の力不足もあってなかなかうまくいかないことが多い。とくに話し合い活動で、自分の意見を言うことはできるが、友達の意見のよさに目を向けて、自分の考えと合わせてよりよい方向に進めていこうというところまで、どのように発展させたらよいか？
- ◇本校は少人数のため、児童同士の人間関係が固定化している傾向がある。この状態に揺さぶりを入れるにはどのような手だてが考えられるか？
- ◇少人数の学級での人間関係が固定したり、序列ができたりするので、打破するにはどうしたらいいのか？
- ◇保育所からずっと同じメンバーで学習したり生活したりしてきているので、友達に対して「○○君は・・・な人。」と固定的な見方をしてしまう。新たな友達のよさを理解させるにはどのような支援をしたらよいか？

- ◇少人数学級では、子ども達の間関係が固定化してしまう傾向が強い。そんななかで、よりよい人間関係を創っていくことは時としてとても難しいし、一度こじれるとかなり尾を引く。「どうせあの子はあんな子」という固定観念を変えていくには、どのように支援していくことが必要か？
- ◇よりよい人間関係を培っていけるよう、一人ひとりを認め合い、みんなでひとつのものを創り上げていく喜びや、協力、団結することなどの喜びが味わえるような活動をしていきたいと考えているが、どのように取り組んだらよいか？
- ◆固定された人間関係を打破するには？
- ◇発達障害の傾向が見られる児童も含めて、コミュニケーションづくりの苦手な児童も学級の中で輝ける学級づくりをするにはどのような手立てがあるか？
- ◇対人関係をうまくとれず、集団に参加しづらい子どもにはどのように対応していくとよいか？
- ◆学習障害のある児童やキレやすい児童をからませた学級経営のあり方
- ◇学級活動の年間計画はあるのだが、本当に使えるものになっていない。使える年間計画をどのようにつくればよいか？
- ◇児童の実態に応じて、年間計画が、入れ替わることが多い。それはそれで、大切なことはある。年間計画が、どのくらい実践されているのかを把握したり、その問題点を明らかにしていくためにどのような取り組みをすればよいか？
- ◇特別活動の学習評価の充実はどのように図っていくか？
(自分自身による振り返り、他者からの評価の方法)
- ◇学級活動での評価がしっかりとできていないような気がする。どのようにして確かな評価にしていくか？
- ◇子ども達が主体的にかかわっていきこうとする意識を、6年間段階を追って育てたいが、なかなか学校内で教師間での意識のずれが生じる。全校で共通意識をつくっていくためにどうすればよいか？
- ◇長年続いている活動が多く、児童はよく活動しているので活動自体に課題といったものはこれとってない。しかし、これまでの流れの中で今年もという活動になりがちなのでいかに児童が必要感をもって活動していくかが課題である。
- ◇この学校に来て特活を担当して3年目になるが、何となく活動がマンネリ化しているような気がする。また、いろいろやってみたいことがあっても、場所や時間等に制約があるという意識から脱却できず、のびのびと活動できないのが残念である。どのように乗り越えていくべきか？
- ◇少人数の中での特別活動で、6年生がその運営を担うことが多いのは当たり前のこととして、下級生がお客さんになってしまう傾向がある。全員参加型の縦割り活動にしていくにはどのような取組がよいか？
- ◇学級での話し合い活動で、自分たちの問題を真剣に捉え、解決に向けて取り組んでいこうとする姿勢をどうすれば育んでいけばよいだろうか？

- ◇全校的に見て、話し合い活動が活性化しない。各学級における時間の確保はどうすればよいか。また、学級を離れた場での「話し合う力」を育てるにはどうしたらよいか？
- ◆学級会での教師の出どころは？
- ◇教師主導の学級指導ではなく、児童が主体的に取り組める内容とそれを実践する手だてはどうあるべきだろうか？
- ◇つい教師主導となってしまう、話し合い活動を活発にし、子どもたちに力をつけていくことができない。児童が主体的に取り組めるための手だてはどうあるべきだろうか？
- ◆現在5年生を担当。学級会を実施する際に、司会グループ（計画委員）への指導について、どこまで教えて、どこで見守るか、基本的なところから教えていただきたい。
- ◆子どもたちが本気になれば、なかなか時間内での折り合いが難しい。また、話し合いに事前の準備が必要であり、あまりそこに時間をかけられない。
- ◇学級会の話題の取り上げ方、運営の仕方がよくわからない。
- ◇子どもが自主的に動き出す魅力ある学級活動は、どう仕組みでいったらいいのか？
- ◇全員が意欲的主体的に取り組む話し合い活動は、どのように作りあげていけばよいか？
- ◇学級で話し合っ解決したことの実践化をどう図るか？
- ◇学活で考えたことを、実践する力（行動力）が定着しない。自治能力を高めて、自分たちの生活を快適にしようとする力をつけるにはどうすればよいか？
- ◇準備や振り返り（反省、評価）の場と時間はどのように確保していくか？
- 1 子ども同士 2 教師間 3 子どもと教師
- ◇少人数で経験も乏しいことから、学級会でなかなか新しい発想が出てこなかったり、ひとつの解決案にとどまったりする。どのように支援していくべきか？

いかがでしょうか。読者の皆さんが普段感じておられる課題もあったのではないのでしょうか。皆さんが、いかに様々な課題と向き合いながら取り組んでおられるのかが分かりました。

今回は、冬の学習会の午後に行いました「井戸端会議式問題解決座談会」で、これらの課題を解決するためにどういう話し合いをしたかをお知らせしていきます。

2 メルマガ編集部からのお知らせ

◆ “学級づくりへの思い” 募集◆◇◆

100号を突破したことを記念して、購読者のみなさんから、学級づくりで大事にしていることを募集したいと思います。下記アドレスまで、ご一報ください！

sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は280名弱ですこれまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。

お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆メールングリスト「学級づくり夢工房」◆◇◆

ネットワークでは、メールングリスト「学級づくり夢工房」を行っています。これは、メールを使って学級づくりに関する情報を気軽に交換し、皆さんがお持ちの実践を共有化しようというものです。

方法は簡単！ 下記アドレスまで「メールングリスト希望」と書かれて送信してください。こちらで登録を行います。

ともに夢を追いかけましょう！

sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見は

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

西田智行（下関市立垢田小）

福永博一（萩市立椿西小）

=====